

東日本大震災への対応



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

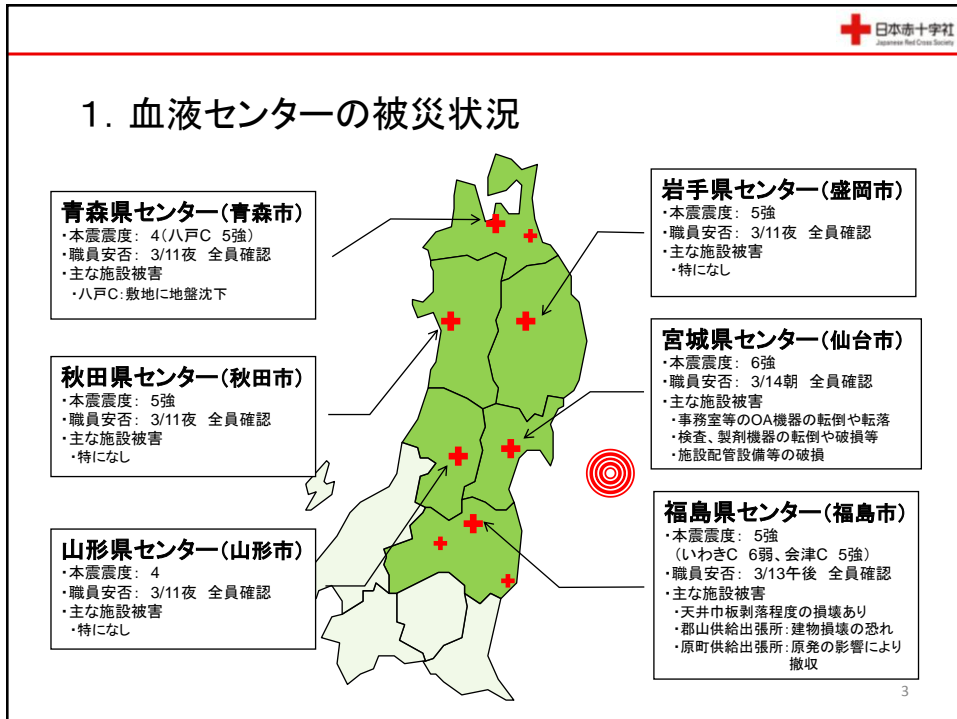
1



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

1. 血液センターの被災状況
2. 血液製剤の安定供給と献血者の安定的確保
3. 福島第一原子力発電所事故にかかる対応
4. 計画停電の影響
5. 身元不明遺体の特定にかかる協力

2



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

ライフラインの復旧と各業務の再開日

	ライフラインの復旧			献血受入再開日		検査・製剤再開日	
	電気	ガス	水道	固定施設	移動採血	検査	製剤
青森C	3/12	—	—	3/13	3/14	宮城C再開まで 東京Cで実施	3/13
八戸C	3/12	—	—	3/14			
岩手C	3/12	—	—	4/20	4/18	4/18	4/18
宮城C	3/12	3/27	3/22	4/18	5/1 (受入可能な会場 から再開)	4/13	4/13
秋田C	3/12	—	—	3/13	3/14	宮城C再開まで 東京Cで実施	3/13
山形C	3/12	—	—	3/13	3/14	宮城C再開まで 埼玉Cで実施	宮城C再開まで 新潟Cで実施
福島C	—	—	3/18	4/18	5/1 (受入可能な会場 から再開)	4/18	4/18
会津C	—	—	—	4/25			
いわきC	—	3/14	4/8	4/26			

検査: 東北各県の検査業務は宮城Cに集約
製剤: 岩手C、山形Cの製剤業務は宮城Cに集約

4

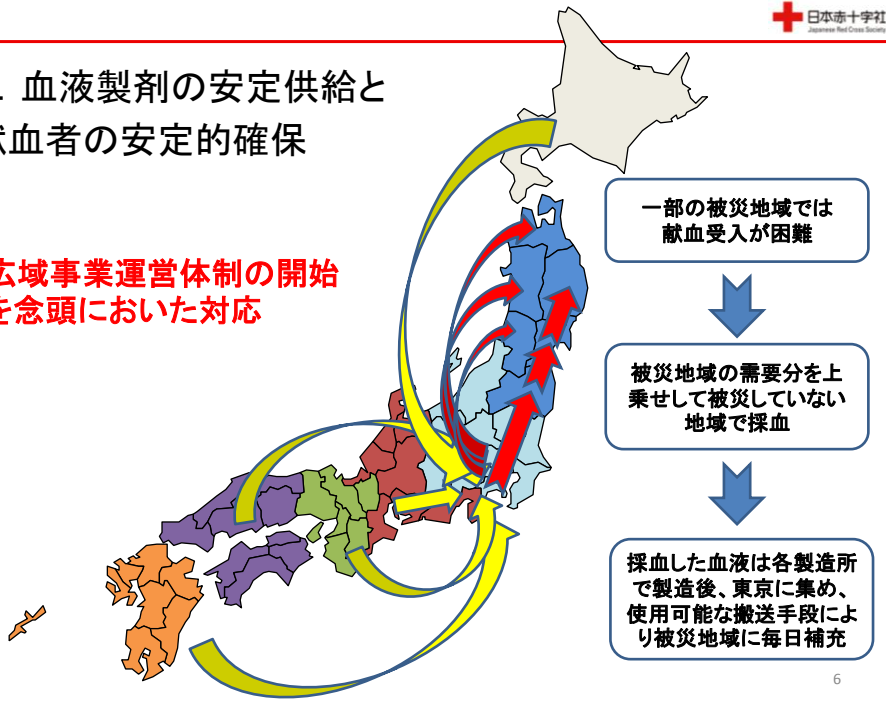
被災地域における安定供給への影響

- 医療機関と連絡がとれない(有線電話・携帯電話ともに不通)
 - 医療機関に直接訪問し血液製剤を供給(巡回供給)
- 燃料の不足(ガソリン、軽油)
 - 緊急車両の燃料補給にも苦慮
 - 公共交通機関の不通、一般車両の燃料補給が困難なことから職員の通勤に支障(基幹センターである宮城県センター供給業務を中心として、全国の血液センターから緊急車両8台、延べ100人の支援)
- 停電により自家発電装置のない供給施設等の血液製剤等は母体の血液センターへ搬送
- 被災地域での献血受入は困難

5

2. 血液製剤の安定供給と献血者の安定的確保

広域事業運営体制の開始
を念頭においた対応



6

日本赤十字社 Japanese Red Cross Society								
宮城ブロックの採血及び供給状況(3月～4月)								
(速報値)								
	3月				4月			
	献血者数 (人)	前年比 (%)	供給本数 (単位換算)	前年比 (%)	献血者数 (人)	前年比 (%)	供給本数 (単位換算)	前年比 (%)
宮城ブロック	19,744	61.1	95,302.0	83.2	15,737	47.6	106,002.5	98.5
(特に被害の大きい3県)	岩手県	1,687	36.3	14,314	87.7	1,925	16,078	105.2
	宮城県	2,708	35.4	20,900	76.4	1,340	27,224.5	111.0
	福島県	2,611	34.7	19,959.5	70.9	759	21,187.5	84.9

〔例: 血小板製剤〕
→ 宮城ブロックの翌日平均供給数の約9割を各ブロック(計画停電のため東京ブロックは除いた)が需給調整により支援体制を整備

月曜日平均供給数が205本であれば9割に当たる185本を需給調整
〔内訳〕 北海道ブロック(1割・18本)、愛知ブロック(2.5割・47本)、大阪ブロック(3割・55本)、岡山ブロック(2割・38本)、福岡ブロック(1.5割・27本)

日本赤十字社 Japanese Red Cross Society								
震災後のブロック間 受払状況								
(単位: 換算)								
ブロック	赤血球製剤				血小板製剤			
	受入		払出		受入		払出	
	3/12～3/31	4/1～4/30	3/12～3/31	4/1～4/30	3/12～3/31	4/1～4/30	3/12～3/31	4/1～4/30
北海道	0	20	491	2,375	20	0	2,500	4,015
宮城	12,285	26,651	0	0	31,500	38,325	0	0
東京	156	17,601	9,720	21,820	27,735	43,280	29,390	38,700
愛知	2	1	152	5,272	30	160	6,100	11,295
大阪	3	422	1,049	4,365	60	60	10,430	13,265
岡山	38	210	0	3,027	85	175	5,530	8,810
福岡	0	2	1,072	8,048	330	225	5,810	6,140
合計	12,484	44,907	12,484	44,907	59,760	82,225	59,760	82,225

全国的な支援体制により安定供給を確保

血液製剤(赤血球製剤)の在庫保有率の推移

適正在庫数(過去一年間の平日の平均1日需要量の3日分を目安)を100%としている

ブロック	3月11日	3月21日	3月31日	4月11日	献血者数対前年同月比※	
					400mL献血	血小板献血
北海道	154%	263%	194%	203%	107.0%	119.0%
宮城	175%	172%	157%	177%	61.7%	39.0%
東京	200%	245%	209%	180%	104.8%	98.5%
愛知	190%	283%	282%	229%	113.4%	113.4%
大阪	180%	262%	246%	192%	114.5%	108.4%
岡山	170%	236%	267%	195%	115.3%	108.3%
福岡	167%	371%	397%	200%	131.4%	119.9%
合計	183%	263%	249%	195%	109.5%	102.1%

※【参考】平成23年3月分における400mL献血者数及び血小板献血者数の対前年同月比(献血者速報値)

9

— 安定供給への対応 — 一時期に偏ることのない継続的な献血へのお願い

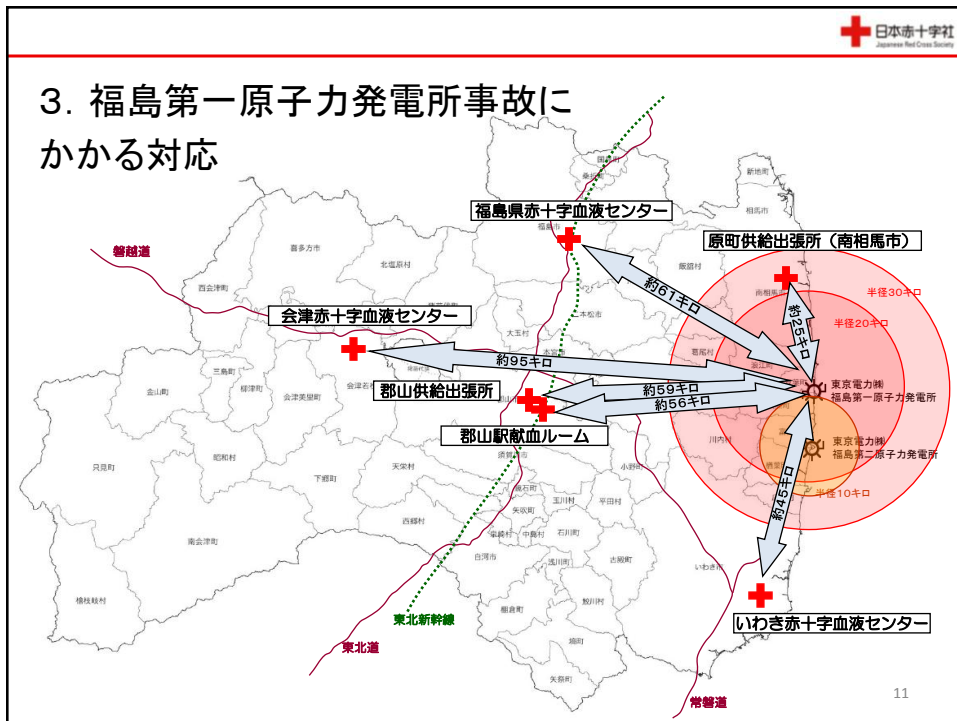
〔日赤ホームページに3月13日に掲載(一部を抜粋)〕

皆様からのご協力によりまして、現時点におきましては、医療機関からの需要に安定的に血液をお届けできております。

しかしながら、血液製剤は有効期限があることから、**一時期に献血者が集中すると、期限切れが発生し**、医療機関への安定供給に支障をきたす恐れがあります。

皆様からの善意の献血を無駄にすることなく最大限に被災地の医療に活用するため、**一時期に偏ることのない継続的な献血が必要**でありますので、何卒ご理解のうえ、今後とも献血へのご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

10



- 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
- **南相馬市・原町供給出張所(第一原発から約25km)の業務休止**
 → 半径20km圏内の地域住民に対する国からの避難指示を受け、3月13日に撤収し、在庫を福島センターに移管して福島センターからの供給に切替える
 - **いわきセンター(第一原発から約45km)の貯留保管新鮮凍結血漿の移管**
 → 非難区域が拡大する事態を想定し、移送に時間がかかる貯留保管新鮮凍結血漿(約6,500本)を3月18日に九州血液センターへ移管
 現在も業務は継続中
 - **供給時における放射能対策**
 → 線量計を配備し、30km圏内を走行する場合は携帯
- 12

4. 計画停電の影響

- 対象地域の献血ルームでは受付時間の変更(時間短縮)
- 検査・製剤業務の作業時間の延長(夜間対応等)

13

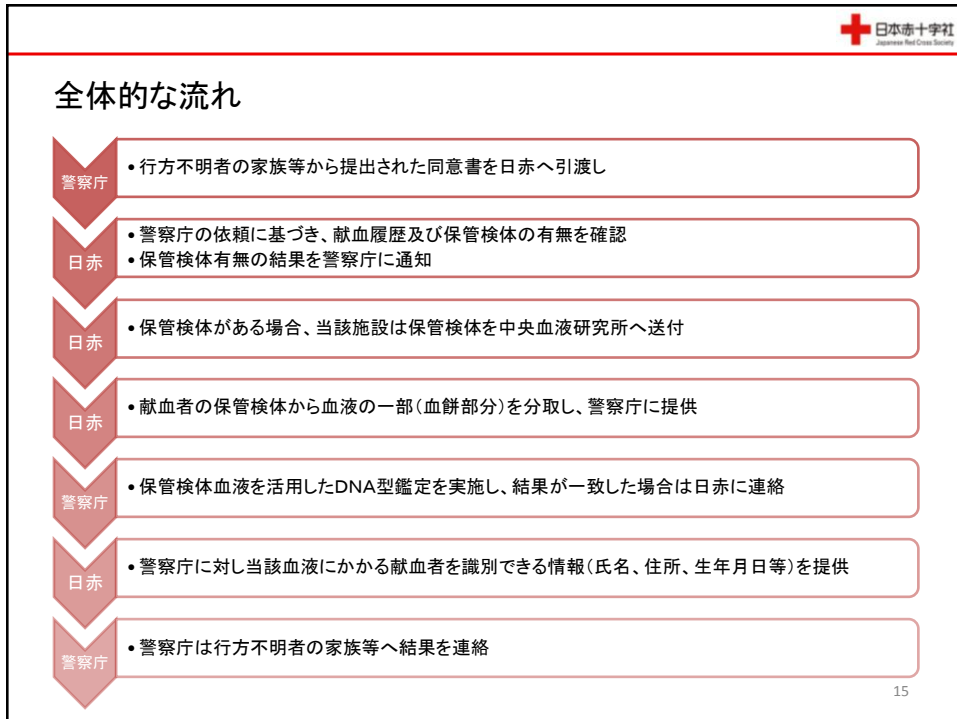
5. 身元不明遺体の特定にかかる協力


非常時における例外措置として協力

【条件】

- ① 東日本大震災の行方不明者であること
- ② 本人の家族、親族の要請によるものであること
- ③ 本人の特定のためのDNA鑑定のためにのみ使用すること
- ④ 使用後は血液を廃棄すること
- ⑤ 検体保管の目的に支障を及ぼすことがないこと
(提供する血液は微量であること)

14



 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

(平成23年9月12日現在)

- ・同意書受領数 … 1,271
- ・献血者履歴有りの数 … 183
- ・血液提供数 … 122
- ・提供血液により身元が判明した数 … 30

16